

附属図書館
自己点検評価報告書
平成 18 年度

2007. 12

目 次

I 附属図書館の目的・目標

II 附属図書館の概要

III 領域別評価

1 教育支援

- (1) 資料の収集整備
- (2) 資料の提供・活用
- (3) 情報リテラシー支援（図書館利用指導）
- (4) 図書館間相互貸借（ILL：Inter Library Loan）
- (5) 読書奨励事業
- (6) 教育ポータル
- (7) 電子情報の収集管理
- (8) 自学自習環境の整備

2 研究支援

- (1) 研究用資料の収集整備
- (2) 電子ジャーナル
- (3) 文献データベース
- (4) 目録情報の整備
- (5) 文献情報及び研究情報の電子化

3 社会貢献

- (1) 市民へのサービス
- (2) 公開講座・展示会等
- (3) 県内図書館との連携
- (4) 地域文化交流協定
- (5) 地域資料の収集・整備
- (6) 広報活動

4 組織運営

- (1) 組織の編成・管理運営
- (2) 財務

5 施設・設備

- (1) 施設、設備等の整備状況
- (2) 施設、設備等の利用状況

I 附属図書館の目的・目標

1 附属図書館の目的

附属図書館は、佐賀大学の基本的な目標である高等教育と、高度な学術研究活動を支える重要な学術情報基盤を構成する機関であり、佐賀大学において行われる教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、組織化を行い、効率的・効果的に提供する役割を担っている。

また同時に附属図書館は、学生が自発的に学習を行う拠点として、体系的かつ網羅的な図書館資料とともに、情報ネットワークを整備した学習環境を提供するという重要な役割を持っている。

さらに、佐賀大学の基本的な目標のひとつである社会貢献の一翼を担うため、地域に開かれた生涯学習の拠点として様々な活動を推進して行く。

今日、学術情報の多様化・増大化及びインターネットの普及により、情報流通形態が歴史的変革を遂げており、利用者の情報利用行動も大きく変わりつつある。このような状況の中で、附属図書館は、従来の図書館機能を保持しながら、最先端の電子図書館機能をも備えたハイブリッド型図書館を目指すものである。

上記目的に則って、附属図書館の中期目標・計画を以下のように掲げている。

(1) 教育支援

【目標】

- 1) 教養の形成、専門の学習及び自発的な学習の拠点として、体系的かつ網羅的な蔵書構築の推進と、情報サービスの充実を図る。
- 2) 学術情報処理センター(現「総合情報基盤センター」)と連携し、電子図書館機能の一層の充実を図る。
- 3) 地域に関わる貴重資料を収集・展示する博物館機能を持たせ、地域に開かれた教育・研究の場とする。

【計画】

- 1) 学生用資料、貴重資料（電子媒体資料を含む。）等を計画的に収集し、提供する。
- 2) 学生用図書費の経常経費化を維持し、シラバス指定図書及び学生希望図書を購入する。
- 3) 図書館月間の企画などを通じて読書奨励、読書案内を推進する。
- 4) 自学自習を行うためのスペースを整備する。
- 5) 学術情報処理センター(現「総合情報基盤センター」)と連携し、収集した情報を有効に関連付けた教育ポータルを構築し、提供する。
- 6) 電子情報の収集管理、貴重資料の収蔵展示など、総合的な環境整備の基盤となる施設の設置を目指す。

(2) 研究支援

【目標】

- 1) 研究を創造的、効率的に実施するための研究支援、事務システム等を充実強化する。

【計画】

- 1) 附属図書館において、文献データベース、電子ジャーナルの維持、拡大を図る。
- 2) 附属図書館と学術情報処理センター(現「総合情報基盤センター」)は連携して、研究情報・文

献情報の電子化による研究支援体制を充実する。

（３）社会貢献

【目標】

- 1) 附属図書館を、地域に根ざした生涯学習の拠点として整備し、研究成果などを提供する。

【計画】

- 1) 附属図書館は、蔵書の貸出、地域の図書館間の横断的検索システムの構築、公開講座の実施等により、市民への情報サービスを一層充実させる。
- 2) 附属図書館に地域資料を収集し、地域文化交流協定の締結を進める。

Ⅱ 附属図書館の概要

附属図書館は、経済、文化教育、農、理工の4学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,332㎡である。開架閲覧室、自由閲覧室、閲覧個室、リスニングルーム、マルチメディアルーム、グループ学習室等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。この他に旧館書庫780㎡を有する。1階から3階が利用者用スペースとなっている。総座席549席の他にグループ学習室、マルチメディアルーム、研究者閲覧個室、ブラウジングコーナー、ラウンジなどを備え、利用者用として学内LANに接続されたパソコンを75台、及び情報コンセント等、ネットワークを利用した学習環境を整備し、学生及び研究者の学習、研究の能率向上を図るよう配慮している。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,741㎡である。総座席132席を備え、利用者用として学内LANに接続されたパソコン53台を配置するとともに、図書等の蔵書構成、配置等について、十分に検討し、医学部の理念である自己学習と自己評価が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、自動入退館システム、図書自動貸出装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。

蔵書は、本館には、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料約59万1千冊、和洋雑誌約9,300種を所蔵し、医学分館は、医学・看護学専門関係資料及び一般教育関係資料合わせて約10万6千冊、和洋雑誌約2,000種を所蔵している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献データベース12及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全5,600種の電子ジャーナルへのアクセスが可能となっている。

また、全国的な学術情報ネットワークに参画し、膨大かつ多様な学術情報を提供するとともに、総合情報基盤センターと共同で電子図書館システムを運用し、本学の学術情報の発信機関としての役割を担っている。

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

(1) 資料の収集整備

現状

【資料】1-1 附属図書館蔵書数、1-2 開架図書冊数(本館)

1-3 学生希望図書冊数(本館)

1) 整備の状況

(本館)

4 学部を擁する本庄キャンパスでは、図書(視聴覚資料を含む、以下同じ)は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料 591,000 冊を整備している。内訳は、人文科学分野 201,000 冊、社会科学分野 199,000 冊、自然科学分野 190,000 冊である。学術雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて約 9,000 種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、利用に供している。

(医学分館)

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に 106,275 冊を整備している。内訳は、医学・看護学分野の専門図書 70,663 冊、一般教養図書 35,612 冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め約 2,000 種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

2) 収集の状況

(本館)

教育・学習支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等(以下、学生用資料)の整備費の確保は最も重要な案件の一つであった。整備費は法人化直前の平成 15 年度に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されているため、その課題は解決した。

学生用資料の選定に当たっては、附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に整備を行っている。また、平成 16 年度からは、学科推薦図書と教員推薦図書の調査票配布・回収及び業者への発注業務を電子化し、業務の効率化と処理の迅速化をはかっている。

学習用図書として特に重点的に整備を図る必要がある資料としてシラバス(学習要領)に掲載されている参考書がある。これについては、前年度中に次年度用の資料を整備しておく必要があるが、平成 19 年度当初に利用する資料は平成 19 年 3 月末までに整理を完了した。これは、関連部局、教員からの協力はもとより、学務部の協力により、登録期限の前倒しが実現できたこと、シラバスシステムから登録されたデータを抽出するためのツールを開発した点によるところが大きい。

また、附属図書館は学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」を運用している。リクエストされた図書は選書専門委員会で審議を経た後、購入する。従来紙で受け付けていたが、平成 17 年度より Web からのリクエスト・システムを稼働した。また、平成 18 年度より、図書館利用指導時に「学生希望図書制度」について積極的に広報を行っている。一方、読書奨励企画として、本館及び医学分館の蔵書構築作業の一部に学生が参加できる学生選書委員を組織し、「学生選書ツアー」を開始した。詳細は「(5) 読書奨励事業」で記述する。

(医学分館)

医学部の研究用及び教育用の図書・雑誌の整備については、医学部教員で構成される医学分館運営委員会による収集体制をとっている。医学部のシラバスに掲載された参考図書はすべて収集したうえ、医学部教員等により推薦された図書を委員会で選定し、計画的・系統的に収集している。また、医学部で実施されている PBL 問題解決型学習に対応した図書の整備も行っている。さらに、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を整備するよう留意し、所蔵する専門図書、参考図書の改版・新版等を積極的に収集している。

評価

所蔵図書数、所蔵雑誌種類数、視聴覚資料所蔵数すべて、同規模大学平均より少ない。資料媒体の変化により単純に図書・雑誌の冊数で評価するのが困難な状況となってきたが、限られた学生用資料経費の中で、佐賀大学の教育に対応した適切な資料の収集整備が望まれる。

また、所蔵資料が教育・研究に有効に活用されるかどうかとも問わなければならない。

教員及び図書館職員による選書専門委員会と学生選書委員会が両輪となって、蔵書を構築してゆく体制ができたことは評価できる。

本館での、シラバスに掲載されている参考書の前年度収集を実現できたことは評価できる。

課題と対策

図書館利用指導時等における「学生希望図書制度」の周知、シラバス掲載参考書の前年度収集、学生選書委員会による選書等の取り組みを通じ、利用の拡大につなげたい。一方、限られた予算を有効に利用するため、データベース等継続して収集している資料の見直しを実施する必要がある。

(2) 資料の提供・活用

現状

【資料】1-4 開館時間、1-5 年間開館日数、1-6 入館者数、1-7 館外貸出状況

1) 開館の状況

(本館)

開館時間延長の要望に応えるため、平成 16 年度から土・日及び祝祭日の開館時間を午後から夕方中心の時間帯へシフトし、更に 1 時間延長する等の試行運用を行ってきた。平成 18 年度は休業期の開館時間を 20 時まで延長する試行を行った。また、教員に限り、磁気カードによる入館方式により、24 時間何時でも図書館利用ができる体制をとっている。

(医学分館)

医学分館の土日の開館時間は、それまでは土曜日が 9:00-16:30、日曜日が 11:00-18:30 であったが、平成 16 年 8 月からは、利用状況に合わせて土日とも 10:30-18:30 としている。

医学分館は磁気カードによる入館方式により、医学部所属のすべての学生と、申請を行った医学部の教職員は 24 時間いつでも図書館利用ができる体制をとっている。

2) 利用の状況

(本館)

平成 15 年度以降減少傾向にあった入館者数は平成 18 年度に入り約 29 万人と増加している。開館時間の変更、履修登録手続きの電子化に伴う端末利用を目的とした学生の増が一因だと考えられる。館外貸出冊数は引き続き減少傾向にある。

(医学分館)

貸出者数・貸出冊数は減少傾向にある。貸出者数の減少は、電子ジャーナルの充実により、図書館

まで足を運ばずとも、雑誌の利用ができるようになったことも一因と考えられる。

評価

本館の入館者数の減少傾向に歯止めが掛かったことは、評価できる。しかし、一館平均の貸出冊数が同規模大学に比して極端に少ない。全国的に学生が本を読まなくなったといわれる昨今の状況を考慮すると、今後の増加の見込みは薄い。

自学自習の場としての図書館の機能とは何か再考すべきである。

課題と対策

学生選書委員の活動を学内外に広報し、学生の身近にある図書館というイメージをアピールすることで学生の利用促進につなげたい。また、安全かつより良い環境で学習・研究が行えるよう、館内施設・設備等の見直しをはかりたい。また、本館の入館者数の増加が一過性に終わらないよう、来館した学生をリピーターにするための工夫が必要である。

また、開館時間変更の試行について結論を出す必要がある。

（３）情報リテラシー支援（図書館利用指導）

現状

【資料】1-8 利用指導実績（本館）

（本館）

毎年、入学式の配布資料として「図書館利用のしおり」を新入生全員配布すると共に、入学式後のオリエンテーションで附属図書館の紹介を行っている。

実際的な利用方法等については、4月初旬から5月末にかけて図書館利用指導を開催している。これは原則として、教員の申請に従って授業時間内に、附属図書館で行うものである。初級コースと上級コースに分かれており、初級コースは基本的な図書館の利用指導、上級コースは電子ジャーナルや文献データベース等の利用方法等の指導を行っている。

（医学分館）

毎年、医学部の新入学生（医学科95人、看護科・編入生75人、大学院修士課程学生若干人）と新採用看護職員（本学卒業生を除く）30人前後を対象にオリエンテーションを行っている。新入生に対しては情報基礎演習などの講義を利用して、担当教員の協力のもと、利用指導を行っている。大学院博士課程の学生を除いて、ほぼ全員が受講する。

評価

新入学生へのオリエンテーションの状況は概ね良好といえる。本館における新入生全員の受講は、現在の方法では、担当人員等に限界がある。授業カリキュラムへの組み入れ等を検討するべきであろう。また、上級生へのより高度な利用指導を拡充する必要がある。

課題と対策

図書館の利用促進には、利用指導は最も効果的な方法である。今後は年間の授業カリキュラムの中に取り入れてもらうことも含め検討すると共に、本館では、新入学生全員の受講を目指し、周知方法・実施方法、内容について検討して行きたい。

（４）図書館間相互貸借（ILL：Inter Library Loan）

現状

【資料】1-9 相互貸借冊数、1-10 文献複写件数

（本館）

平成 15 年度以降、相互貸借や文献複写の申込が Web から可能となった。

国立情報学研究所の ILL 流動統計を見ると国立大学全体で減少傾向が見られる。国立大学における電子ジャーナルパッケージ導入の影響と考えられる。

本学では、受託件数は平成 15 年度以降減少傾向にあるが、平成 17 年度からは依頼件数が増加している。

（医学分館）

医学分館の文献複写件数は、若干減少傾向にある。これは、電子ジャーナルの充実と利用者の習熟度もあげられると思われる。

評価

件数を同規模大学の一館平均件数と比較すると、依頼件数は多く、受託件数は少ないという傾向である。

課題と対策

ILL は、所蔵資料の少なさを補う機能として重要な位置づけにある。学生の中には、相互貸借や文献複写のシステムを知らない学生もいると思われるので、引き続き利用指導等による広報・周知を図っていききたい。一方、依頼件数が多い資料については、購入について検討する必要がある。

（５）読書奨励事業

現状

【資料】附属図書館報『ひかり野』 No. 31

1) 平成 16-17 年度

平成16年度から17年度にかけて、読書奨励事業として以下の企画を実施した。

- ・高校生が選ぶ『大学に入ったら読みたい本100選』（16年度）
- ・佐賀大学の学生にすすめる本（17年度）
- ・読書の会（17年度）
- ・Good Luckを原書で読む会（17年度）

2) 平成 18 年度

①『ティファニーで朝食を』を原書で読む会

平成18年11月から19年2月の間の土曜日の午後、学生・市民を対象とした会を実施した。前年度に引き続き、教育学研究科教科教育専攻英語教育専修の大学院生3名にチューターを依頼し、映画鑑賞を交えるなどの工夫を凝らした内容であった。

なお、この会に参加した市民の方には、修了証書と佐賀大学記念グッズを贈呈した。

②学生選書委員による選書

平成 19 年 1 月 17 日、紀伊國屋書店佐賀店において各学部の附属図書館運営委員から推薦された 11 名の学生で組織した学生選書委員による選書ツアーを実施した。当日都合によりツアーに参加できなかった学生委員は、紀伊國屋のオンラインシステムで選書に参加した。ツアーの後に開催

された学生選書委員会による協議を経て、図書 230 冊を購入した。この企画は、九州地区の大学では初の試みであり、佐賀新聞、朝日新聞(全国版文化面)に掲載されるなど、注目を集めた。

また、この企画で購入した図書は、図書館入口に近い場所に特別コーナーを設置して配架した。

評価

これまで、読書奨励に関する様々な試みを積極的に行なっている。参加者の感想等からは、有意義な企画であったことが伺え、評価できる。しかし、原書を読む会の参加者は少なく、広報等への工夫が望まれる。

課題と対策

原書を読む会は、参加対象を学生・教職員・一般市民に広げたが参加者数は少なく、参加を想定する者の利便性を考慮して会場を学外に設定する等の工夫が必要であろう。また、大学の生涯教育カリキュラムに取り込むことも検討の必要がある。

一方、学生選書委員会は単に学生が図書を選定するだけではなく、学生の声を収集する手段として捉え、図書館の環境・サービス向上に活用する等の工夫が必要であろう。

(6) 教育ポータル

現状

教育ポータルを、学内の学生及び大学院生が、学習に必要な学術情報及びサービスをワン・ストップで利用できる学習支援サイトであると位置付け、平成 16 年度より、総合情報基盤センター及び附属図書館が別々に提供している種々の学術情報（電子ジャーナル、文献データベース、図書・雑誌の所在情報、論文全文情報、授業概要情報など）及びサービス（文献複写依頼、レファレンスなど）をナビゲーション機能とともに提供する計画を検討し始めた。（関連情報を収集し検討したところ、検討対象とする機能は、「教育ポータル」というよりは、むしろ「図書館ポータル」という呼び方が適切であると判断した。以後「図書館ポータル」と呼ぶ。）

平成 17 年度末に図書館業務システムの更新を行い、総合情報基盤センターと連携して、図書館から提供している様々なサービスの総合的な窓口として、Web を介した図書館ポータル機能を導入し、公開している。図書館ポータルでは、蔵書検索・電子ジャーナル検索、学生希望図書申込み、貸出状況確認・予約確認、文献複写依頼、グループ学習室予約、利用サービスのお知らせ、図書館への質問等がワンストップで利用できる機能を提供している。また、自分の利用傾向にあったポータルページにカスタマイズできるパーソナライズ機能を実現している。

評価

教育ポータルの状況は概ね良好である。今後、利用状況等を見ながら充実を図る必要がある。

課題と対策

今後も、新しい機能を追加・拡張設定し、ポータル機能を充実していく。併せて、ポータル自体の広報にも力を注いでゆく必要がある。

(7) 電子情報の収集管理

「2 研究支援」の「(5) 文献情報及び研究情報の電子化」に記述した。

(8) 自学自習環境の整備

現状

【資料】5-1 図書館面積・閲覧座席数、5-2 視聴覚機器保有台数

5-3 端末機器導入状況

開館の状況については、(2) で記述したとおりである。視聴覚機器は本館、医学分館併せて 70 台を有する。

平成 18 年度末現在、図書館内の利用者用端末は、本館 75 台、医学分館 53 台の計 128 台である。利用者用端末は、総合情報基盤センター内の演習室に設置してあるパソコンと同じ環境で利用ができ、学習及び研究目的により活用されている。また、無人開館時間帯に図書館を訪れる利用者の安全を確保するために、防犯カメラを設置している。

医学分館においては、資料配架の見直しと老朽化した閲覧机を更新することで座席数を 8 席増やすことができた。

評価

開館日数も同クラスの同規模大学と比して多く、開館時間も工夫されている。また、利用者用端末数・視聴覚機器保有台数も同規模大学の平均より格段に多い。自学自習環境としては高く評価できる。しかし閲覧座席数が全国平均より少なく、補うための何らかの方策が必要である。

課題と対策

本館、医学分館ともに竣工以来一度も増築を行っていないため、資料配架スペース不足が閲覧スペースを圧迫している。当面増築の目処は立たないため、参考資料等の電子媒体への変更、旧版や重複資料等の廃棄を進め、収蔵スペースを見直すことにより閲覧座席数を確保する必要がある。

2 研究支援

(1) 研究用資料の収集整備

現状 【資料】2-1 図書館資料費の状況

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等へ配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を WEB 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館 68.7%、部局等 31.3%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、附属図書館医学分館に全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

平成 18 年度からは図書の購入依頼方法を Web からの申込みに変更し、図書取扱業者への発注方法もオンライン又は電子メールによることを基本とすることで、購入依頼から発注を経て資料入手までの所要時間の短縮化を進めた。また、図書館システムと財務会計システムとの連携を強化し、財源管理等に要する手間を縮減する等、事務処理の効率化をはかっている。

評価

利用者の利便性を向上させながら業務処理の効率化を進めていることは評価できる。

課題と対策

外国雑誌の高騰、電子ジャーナルに代表される電子媒体資料の増加等で、学術資料の流通環境は激しく変化している。また、資料購入費は、大学経費の配分とも密接に関連する。大学運営経費の増加が見込まれない状況の中、コンソーシアム等への参加を検討しつつ、より効率的で適切な研究用資料の収集に努めたい。

一方、増加傾向にある科学研究費等外部資金による資料購入への対応を検討する必要がある。

(2) 電子ジャーナル

現状 【資料】2-2 電子ジャーナル導入状況、2-3 電子ジャーナル導入経費

2-4 電子ジャーナルアクセス状況

平成 18 年度からの電子ジャーナル購読経費は、全額中央経費で負担することになった。契約形態は、総合型の電子オンリー契約とし、オプションの冊子体は必要に応じて各部局でそれぞれの負担としたが、冊子を購入する際の部局負担額は減少した。また国立大学図書館協会のタスクフォースによる出版社との価格交渉で提示されたいくつかの選択肢の中から最適なものを選んで契約を行うこととした。

一方、無料電子ジャーナルのタイトル増加、パッケージに含まれるタイトルの出入り、ローリング(遡及利用できる年限が定められ、年が改まって新年版が利用できるようになると古い年版が使用不能となること)に伴う OPAC と電子ジャーナルリストの更新作業は、無視できない業務量とな

っている。

評価

電子ジャーナル専門委員会において、学内アンケートや利用調査実施のうえ、今後の方針を検討し、その結果が、全額中央経費での経費負担という成果を引き出したことは、高く評価できる。

課題と対策

電子ジャーナルは高額であるが、アクセス件数は年々増え続けており、全学にわたる教育と研究活動の源泉として、教育、研究のレベルを向上していくために必要不可欠な存在であり、大学の研究情報基盤の一角を構成しているといえる。電子ジャーナルの値上がり等への対応も含め、今後も電子ジャーナルの安定した継続供給に努めなければならない。

他方、データ更新漏れによるユーザの不利益回避と業務の合理化・効率化の観点から既成の電子ジャーナル管理ツールを導入する等の検討を開始したい。

更に、現在は学長裁量経費により主要な電子ジャーナルパッケージの維持ができているが、次の中期目標・中期計画に向け、予算確保の準備に着手しなければならない。

(3) 文献データベース

現状

【資料】2-5 学内 LAN による利用が可能なオンライン文献データベースサービス

2-6 文献データベースのトライアル及び説明会開催状況

文献データベースは電子ジャーナルと伴に大学の教育・研究上において整備・充実することは必須要件であり、本学においても資料に示すデータベースが利用可能である。

平成 17 年からトライアルを継続していた Elsevier Science 社製の Scopus は、大学や研究者の評価にも利用可能な総合的な引用文献データベースで、アクセス件数も非常に多く利用者から導入を望む声は強かったが、高額な経費を要するものであり導入のための予算確保が重要な課題であった。このユーザからの導入希望に基づき学長経費等による平成 19 年度から導入を目指したが、残念ながら全学的な合意を得られず導入を見送らざるを得なかった。

一方、他大学においては Scopus または Web of Science. といった引用文献データベースの導入と、各種データベースと電子ジャーナルの利便性を画期的に向上させるツールとしてリンクリゾルバが広く普及してきている。

評価

医学系を除いて、研究用の国外のデータベース整備が遅れている。経費等の獲得が困難な状況ではあるが、現在導入中のものの見直しを含めた再検討が必要である。九州地区の国立大学の大多数が Scopus または Web of Science を導入しており、研究環境整備で大きく見劣りする状況である。

課題と対策

引用文献データベース Scopus は、学内構成員に対する幅広いアンケートを実施したうえで再度予算措置を求める等により導入をはかりたい。並行して、リンクリゾルバの導入に向けた検討を開始したい。

(4) 目録情報の整備

現状

電子図書館の基本要件である全蔵書の目録データベースへの登録計画（遡及入力計画）を平成 11 年度から 5 ヶ年計画で実施し、平成 15 年度末に図書館（保存書庫を含む。）配置のすべての図書及び一部の研究室を除く研究室貸出図書約 30 万冊について作業を終えた。

平成 16 年度以降、蔵書は法人の"図書資産"として 1 点ごとの資産額の管理が求められている。そのため、遡及入力計画の対象外であった製本雑誌約 10 万冊についても目録情報を作成する必要がある、この分は未入力である。資産額については、現在蔵書の約 80%が未登録である。

評価

遡及入力率が全体 93.8%に達し一定の成果を上げている。

この事業の成果は、国立情報学研究所「総合目録データベース」に反映され大学図書館間における資料の共同利用に寄与すると共に、地域住民に対し所蔵図書をインターネット上で公開している点において地域貢献事業としての評価も与えてよいであろう。

製本雑誌及び図書資産額の資産登録について、登録作業の続行が求められる。

課題と対策

図書館の目録データベースを、資産管理データベースを兼ねるものとして設計・運用しているが、資産額等のデータ登録が喫緊の課題である。そのため、図書館予算にデータ整備費を計上し、計画的に遂行している。

（５）文献情報及び研究情報の電子化

現状

【資料】2-7 電子図書館システム提供データベース一覧

1) 図書館業務システム

平成元年より稼動を開始した本学の図書館業務システムは、平成 17 年度末 4 回目の更新を行い、全業務のシステム化及びネットワークに対応した検索サービスの提供を実現している。システム更新では、利用者用端末の増設を行い、総合情報基盤センター内に設置してあるパソコンと同じ環境で利用することができるようになり、充実した学習環境が整った。

ホームページでは、利用案内、資料案内、レファレンス情報、各種機関へのリンク、文献情報データベース、電子ジャーナル等をはじめ、図書館サービスの一元的な情報発信窓口として図書館ポータルサイトを開設した。また、平成 16 年には、携帯電話用 Web サイトの開設や佐賀県内横断検索システムに参加して、県内の公共図書館と一体となった地域へのサービス提供を行っている。

2) 電子図書館システム

大学図書館は、今日、電子ジャーナル等に代表される電子情報、インターネットの普及により各種情報を電子的に収集・保存・公開することが重要となっている。本学では、平成 13 年より電子図書館システムの構築を開始し、学内に蓄積された教育・研究情報の電子化及びその公開を総合情報基盤センターと連携して行ってきた。特に、博士論文、紀要論文、学内所蔵貴重書、教員研究情報、オンラインシラバス、研究成果公開、植物遺伝資源の収集・公開など、特徴ある電子図書館の構築を行ってきた。また、これに加えて、県内公共図書館との OPAC 横断検索機能の提供を行ってきた。特に、附属図書館所蔵の貴重書である小城鍋島文庫及び市場直次郎コレクションについては、地域学歴史文化研究センターと共同で計画的に電子化を進め保存・公開を行っている。

平成 18 年度からは、国立情報学研究所の最先端学術情報基盤の学術機関リポジトリ構築連携支援事業による委託業務に参加している。この事業は「我が国の学術情報の発信・流通機能の向上を

図るために、機関リポジトリの構築、連携の推進を図ることを目的」としており、当館では 2 年計画の 1 年次に機関リポジトリシステムを構築した。2 年次である平成 19 年度には、他部局と連携を図りながら教員研究情報とリポジトリシステムとの連携を実現するための機能拡張を予定している。

併せて、国立大学協会の九州支部では、支部の活動として「機関リポジトリを利用した教育・人社系の論文集」を電子出版することになった。事務局を担当する大学の図書館としてその支援を開始したところであるが、この論文集の電子出版は全国的に注目を集めている。

評価

電子図書館を実現し、また図書館所蔵の貴重書、論文情報だけでなく、シラバスをはじめ多様なデータベースを公開していること、機関リポジトリを利用した電子出版支援活動は高く評価できる。

課題と対策

平成 18 年 3 月学術情報基盤作業部会「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」にあるように、現在、大学からの情報発信を強化するための方法として、機関リポジトリへの取組みが世界的規模で進みつつあり、国内の多くの大学でも公開が進められている。本学も運用に関わる体制等を早急に整備し、広報とコンテンツの搭載に取り組む必要がある。一方、国大協九州支部の論文集は、平成 19 年度末が創刊予定であり、物心両面からの支援体制の確立が必要である。

3 社会貢献

(1) 市民へのサービス

現状 【資料】3-1 一般市民への貸出状況

1) 閲覧・貸出サービス

市民への閲覧サービスは、本館、分館ともに従来より実施していた。貸出については、本館では比較的早く、平成 11 年 10 月より、一般市民への図書の貸出を実施しているが、平成 15 年度以降、利用登録数は増加し毎年約 160 人程度を維持している。貸出冊数は、ほぼ横ばい状態である。

医学分館では平成 15 年度より一般図書に限り貸出を行なっている。

2) 複写サービス

本館にはプリペイドカード式複写機・分館にはコイン式複写機を導入しており、著作権の範囲内で複写サービスを行なっている。

3) 検索サービス

本館では、館内のパソコン 12 台が利用できる。申請者にはネットワークにアクセスが可能な ID を発行しており、蔵書検索や情報検索、電子ジャーナル等が利用できる。

医学分館では、館内のパソコン 2 台により、蔵書検索や情報検索が利用できる。また、申請者には電子ジャーナル等が利用できる ID を発行している。

4) 相互貸借 (ILL : Inter Library Loan)

本館・分館ともに公共図書館等からの文献複写・図書貸借の依頼に応じ、サービスを行なっている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じ、サービスを行なっている。

平成 19 年 1 月 1 日から、県内の大学及び公共図書館間で相互貸借協定を締結し、最寄の大学または公共図書館を窓口に関内各所の図書館の蔵書が利用できる仕組みが構築できた。平成 19 年 1 月 1 日現在、公共図書館 53 館・室、大学図書館 6 館・室が本協定に参加している。

5) 横断検索システム

利用者目録 (OPAC : Online Public Access Catalog) は平成元年より提供しているが、より一層のサービス拡大のために、平成 17 年に稼動した佐賀県内図書館横断検索システムに参加して、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。佐賀県内図書館横断システムは、佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館を対象に、横断的に各館が所蔵している図書の検索を可能にしたシステムであり、現在、公共図書館 12 館と大学図書館 3 館が参加している。

評価

市民へのサービスについては、概ね良好と判断できる。

課題と対策

地域の生涯学習の拠点として一般市民へのサービスを進める必要がある。また、県内の大学図書館、公共図書館との連携を強化し、資料の貸借の他、職員研修や生涯学習活動に対する相互支援等、サービス面の一層の充実を図りたい。

（２）公開講座・展示会等

現状 【資料】3-2 図書館月間 公開セミナー開催一覧

3-3 図書館月間 文化講演会開催一覧

3-4 図書館月間 貴重書コレクション展示会開催一覧

附属図書館では、図書館利用の活性化や一般市民の図書館利用の促進を図る目的で、11 月を図書館月間として位置付けし、平成 13 年度より毎年 11 月に、講演会、公開セミナー、展示会等を行っている。

1）平成 15 年度

平成 14 年度に引き続き、テーマを「メディアリテラシー」とし、11 月から 12 月にかけて 4 回の公開セミナー、文化講演会、小城鍋島文庫収蔵資料の展示会、市場直次郎コレクションの電子展示などを開催した。

2）平成 16 年度

文化講演会の開催、貴重コレクションの展示、及び読書奨励企画「高校生が大学に入ったら読みたい本 100 選」のアンケート結果公開等を行った。文化講演会は、佐賀市収入役上野信好氏を招き「芭蕉の文芸－古典への回帰を願って－」と題して講演会を開催した。貴重コレクション展示は、市場直次郎コレクションの中から佐賀にゆかりの深い中世から近世の文人の短冊、色紙 18 点を、1 階ロビーにて展示を行った。

3）平成 17 年度

平成 15 年度と同様「メディアリテラシー」をテーマに、公開セミナー、文化講演会、貴重書コレクション展示を行った。同時に、読書奨励企画「佐賀大学の学生にすすめる本－本学教員による図書案内－」の小冊子を配布し、冊子に掲載された図書の貸出を開始した。

公開セミナーでは、大学、新聞社、放送局のそれぞれの見地から、メディアの効果的活用、報道の使命、地域への貢献等の講演の後、質疑応答及び意見交換が行なわれた。特に最後の「ふれあいミーティング」では活発な学生の発言があった。

公開講演会は、16 年度に引き続き、上野信好氏による講演会を開催した。

貴重コレクション展示は小城鍋島文庫から人工體普録 1 冊（人体解剖模型「キュンストレーキ」解説書）を展示した。同時に福井市立郷土歴史博物館から借用した同模型の写真パネルも展示した。

また、同時期に「相良知安展」と称して、相良隆弘氏（佐賀在住）から資料を借り受け、同氏所蔵の写真、文書類を図書館 1 階エントランスホールで公開展示した。

4）平成 18 年度

「見聞録への誘い～図書館からの発信～」をテーマに、文化講演会、公開セミナー(5 回)、市民向け情報検索講習会、小城鍋島文庫から大庭雪齋関連資料の展示を実施した。市民向けの情報検索講習会は今回が初の試みではあったが、関心は低く数名の参加に留まった。

文化講演会及び公開セミナーは、ビデオ撮影を行い図書館内での視聴が可能である。また、講演の一部はホームページに公開しており、インターネット経由で視聴することができる。

評価

図書館月間として継続的に開催している点は高く評価できるが、実施後の検証が重要である。

参加者数統計、アンケート等により、実施の実態を正確に把握し、次回開催方針や、広報活動の見直し等を検討する必要がある。

課題と対策

平成 13 年度より始めた図書館月間は 6 年目を迎えることとなったが、学生、教職員、そして市民の周知度としてはまだまだである。公開講演会をはじめ公開セミナー、展示等をより充実したものとし、有効な広報活動を行うことにより、定着させ発展させて行きたい。また、イベントを市民等の参加が容易な場所で開催する、土日に開催する、学園祭等に併せて開催する、他の機関との共同で開催するなどの検討を行う必要がある。

（３）県内図書館との連携

平成 13 年 2 月に設立され活動を停止していた「佐賀県図書館連絡会議」について、在り方等の見直しを図るために、平成 15 年度より佐賀県立、佐賀市立、佐賀大学の 3 館長で協議を行っていた。平成 16 年度から 17 年度にかけて、今後のあり方について県内の大学図書館及び公共図書館を対象としてアンケート調査を実施することとし、その結果、連携が必要であるとの意見が多数であった。この結果をもとに、平成 17 年度より、県立図書館をはじめとする県内の地域公共図書館と相互利用サービス等の協力体制の拡大・整備について検討を始めた。

平成 18 年 10 月に、『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』を制定し、平成 19 年 1 月 1 日から運用を開始した。

評価

県内図書館連携に関し、継続的な努力を行なっていることは高く評価できる。

課題と対策

館種の違いを超えて連携することは、難しい面もあるが、継続的に協議することにより、できることから実現し、サービスを拡大して行きたい。

（４）地域文化交流協定

現状 【資料】 3-5 文化交流協定 出張講座開催一覧

3-6 文化交流協定 展示会開催一覧

1) 交流協定

佐賀大学附属図書館と小城町との間で平成15年2月19日に地域文化交流協定を締結した。締結の主な目的は次のようなものである。

- ①図書資料等の相互利用はじめ刊行物の交換
- ②相互に関心を有する分野での情報及び資料の交換
- ③社会貢献推進のための交流活動の実施

平成17年3月1日に小城町が町村合併により小城市となったことから、平成17年8月8日に小城市教育委員会と地域文化交流協定を再締結した。

2) 展示会等

①平成15年度

附属図書館と、小城町の文化複合施設・桜城館（小城町立図書館・小城町立歴史資料館・小城町立中林梧竹記念館）の交流事業の一環として、桜城館にて平成 15 年 7 月から 8 月にかけて、「元茂公・直能公の蔵書展」及び「佐賀大学附属図書館出張講座」が開催された。

「元茂公・直能公の蔵書展」は、7 月 19 日（土）から 8 月 17 日（日）まで開催され、附属図書館の小城鍋島文庫収蔵資料のうち、小城藩初代藩主元茂公・二代藩主直能公の蔵書 30 点を展示した。また、「佐賀大学附属図書館出張講座」は 7 月 19・20・21・26 日の 4 日間にわたり開催さ

れ、佐賀大学の4人の講師が小城の歴史・文化に関する講演を行った。この出張講座は、延べ200人を超える方々に受講していただき、成功裡に終わった。

②平成16年度

平成16年度は、学長経費事業である文系基礎学研究の一環として、小城町教育委員会と共催で「小城鍋島藩と島原の乱展」を開催し出張講座を開講した。日程は、平成16年8月10日（火）から9月19日（日）で、会場は小城町立歴史資料館企画展示室（桜城館）である。

附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から展示した主な資料は「鍋島若狭守他連署血判状」「鍋島勝茂書状」「陣立図」「元茂公御年譜」等である。特別展示として、長崎県南有馬町教育委員会蔵の「メダイ」「弾丸」「砲弾」「十字架」が展示された。

③平成17年度

佐賀大学文系基礎学研究プロジェクトと小城市教育委員会の共催で開催された「小城鍋島家の近代展」に附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から近代の資料を貸し出した。

④平成18年度

地域学歴史文化研究センターと小城市教育委員会の共催で開催された「成立期の小城藩と藩主たち」に附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から資料を貸し出した。また、「医療の近代化と歴史研究」国際シンポジウムにあわせて地域学歴史文化研究センターが開催した「幕末佐賀の医師と医学」に小城鍋島文庫から医学史関連資料を貸し出した。

評価

地域文化交流として積極的に活動しており、高く評価できる。

課題と対策

佐賀県内外の地域との文化交流に努めたい。旧佐賀藩の3支藩や邑、および唐津や田代といった地域で培った文化遺産や技術の伝承などの保存について共に考えていきたい。文化交流協定を結ぶだけでなく、地域学歴史文化研究センターと連携して史料や古典籍の保存及び活用についても考えていきたい。江戸・明治期の佐賀の科学技術の高さも地域との交流によって掘り下げられるだろう。からくり儀右衛門や反射炉といった足跡を無駄にすべきではないであろう。

（5）地域資料の収集・整備

現状

【資料】3-7 附属図書館所蔵コレクション一覧

収集については、平成16年度に岡本悟名誉教授より寄付金を受贈し、これを岡本基金として地域資料の購入に充当することを決定した。貴重資料・地域貢献専門委員会において選定作業を進めている。

コレクションの収集・整備を行うために、平成16年度より毎年、地域資料・史料等の購入経費、所蔵する小城鍋島文庫・市場直次郎コレクションを中心とした古典籍・史料の保存・補修・目録化経費、電子化経費等を概算要求等で要求しているがいずれも採択されていない。

平成16年度～18年度の整備事業として、地域学歴史文化研究センターや総合情報基盤センターと連携しながら、小城鍋島文庫資料（日記目録）や市場直次郎コレクション（扇面、大津絵節）の電子化、目録作成（和書、短冊、書巻等）、書庫の薫蒸等を進めている。

評価

コレクション収集・整備については、予算の確保が重要であるが、学内関係機関との共同による予算獲得に向けた戦略的な取り組みが必要である。

課題と対策

小城鍋島文庫は目録が不備なことから正確な目録作成、公開が待たれている。また、市場直次郎コレクションは平成 15 年度に購入を完了し、目録作成作業も継続的に行っているが未完了である。どちらのコレクションも所蔵点数が膨大であるため、目録作成作業は優先度を考慮し計画的に行ってゆく必要がある。

また、コレクションの収集・整備を行うために、地域学歴史文化研究センター等学内外の研究施設・研究機関等と連携を図り、経費の確保に向け努力したい。

他方、貴重資料を有効に利用していただくため、古典資料に精通した図書職員の確保と育成が必要であろう。

(6) 広報活動

現状

広報活動としては、図書館ホームページを開設して、利用案内、開館案内、蔵書検索等のサービスを行っている。平成 17 年には、図書館ホームページの改善を行いレイアウトや操作性を考慮したページになった。また、平成 16 年からは、携帯電話の急速な普及に伴い携帯電話からのアクセスにも対応できるように、携帯サイトを準備してインターネットを利用したサービス提供の充実を行っている。

また、学内広報として平成 17 年 1 月より、講演会の開催通知、データベーストライアルの案内、図書館サービスの案内等をメールで配信する「図書館 ML 通信」を運用している。

さらに、図書館報「ひかり野」を年 1 回刊行して、学内外に配布し、利用統計、各種企画、図書館日誌等を広報している。

現在、市民に対する図書館利用の広報活動として、附属図書館の様々な企画については、地元紙を中心にした新聞及びテレビに広報を要請し、取材を積極的に受け入れている。

評価

広報に関しては概ね良好であるが、講演会等への動員数を考慮すると不十分な点があると考えられる。

課題と対策

今後、ターゲット、タイミング、紙媒体、電子媒体の両面を活用した効果的な広報をどのように行っていくか検討していく必要がある。

また、県内の大学図書館や公共図書館と連携を深め、各種企画の共催、学内外での展示会、講演会等を継続して、市民の理解が深まることで広報の効果が出てくるものと思われる。

4 組織運営

(1) 組織の編成・管理運営

現状 【資料】4-1 附属図書館組織・機構図

1) 館長・分館長

佐賀大学は、平成 15 年 10 月に旧佐賀大学と旧佐賀医科大学が統合し、新佐賀大学となった。附属図書館は、文化教育学部・経済学部・理工学部・農学部がある本庄キャンパスに本館を、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を置く体制とし、本館に図書館を統括する館長を置き、医学分館には分館を統括する医学分館長を置いた。この体制は法人化以後も継続したが、平成 18 年 4 月、館長にかかる負荷を軽減し、2 人体制で諸般の課題解決に向かうため、館長・分館長体制を改め、館長・副館長体制とした。

図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取り纏めを行うとともに、学内の教育研究評議会、大学評価委員会、情報政策委員会等の委員として大学の管理運営に参画している

2) 運営委員会

①附属図書館運営委員会

平成 15 年 10 月に統合時の運営と法人化に備え佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。(平成 17 年 3 月で廃止)

平成 16 年 4 月の法人化後、新たに制定された佐賀大学図書館規則第 5 条第 2 項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第 6 条第 5 項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は以前の委員会と同様に附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長(委員長)、医学分館長、及び各学部より選出された教員 5 人、学術情報処理センター(現「総合情報基盤センター」)長、教養教育運営機構長で構成されている。

また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は分館の運営、分館の諸規程の制定・改廃、分館の予算等に関する事項を審議する組織で、医学分館長(委員長)及び医学部教員 5 人により構成されている。

3) 専門委員会

①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書の収集、電子ジャーナルの導入、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。構成員は、医学分館長(委員長)、学部選出の運営委員 5 人、教養教育運営機構長が推薦する教員 1 人、情報図書館課員 4 人である。

②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。構成員は、附属図書館長(委員長)、学部選出の運営委員 2 人、学術情報処理センター(現「総合情報基盤センター」)長、情報図書館課員 3 人、そして、貴重資料に関連する専門分野の教員若干名を加えている。

③電子ジャーナル専門委員会(平成16年11月～平成18年2月14日)

電子ジャーナルの購入及び関連する事項について調査・検討を行い、『佐賀大学における電子ジャーナル整備について（検討報告書）』（平成 17 年 10 月）を刊行した。

④評価専門委員会(平成 18 年～)

自己点検評価報告書の作成及び外部評価の実施体制を整備した。

4) 関連部局との連絡会議

図書館の目標達成及び計画の遂行には、常に関連部局と緊密に連携をとっていることが重要である。定期的に連絡会を開催し、意思の疎通を図っている。

①電子図書館連絡会議

総合情報基盤センターとは、業務システム、電子図書館システム及び利用者の学習環境の構築に関し密接な関係がある。特に電子図書館システムは、共同で構築・稼動を進めていることから、電子図書館連絡会議を 2 ヶ月毎に開催し、システムの運用・コンテンツ作成等に関する問題を協議・検討している。

評価

各専門委員会がそれぞれの所掌ごとに機能している。また、関連部局との連絡会議を定期的に開催している点は評価できる。

課題と対策

今後も関連部局との連携を維持しつつ目標を達成して行く。また、概算要求等、予算獲得に向けた連携を含め、協力体制を深めていく。機関リポジトリにあっては、国立大学協会九州地区支部で動き出している共同論文集の発行に合わせて、システムの構築と学内への周知、運用規程等の策定を急ぐ必要がある。

5) 事務組織

現状

【資料】4-2 附属図書館職員数（～平成 18 年 6 月）

4-3 附属図書館職員数（平成 18 年 7 月 1 日現在）

平成 15 年 10 月の佐賀医科大学との統合を経て、平成 16 年 4 月から資料 4-1①のような係の構成となった。これまでの本館に医学部分館の定員が加わった。職員数は 24 人で常勤職員 14 人、非常勤職員 10 人である。

国から国立大学法人に予算措置される運営費交付金は、毎年 1 % の効率化係数を課せられており、管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営を迫られている。さらに平成 18 年 5 月の行政改革推進法により、今後 5 年間で 5 % 以上の国家公務員の定員減が目標とされ、国立大学法人もこれに準じた人件費削減の取組を行うこととされた。大学図書館においても、人員の削減を前提とした厳しい組織及び業務の見直しを迫られている。

このような状況を鑑み、平成 18 年 7 月に事務組織再編を行った（資料 4-1②）。目的は、人員削減の情勢の中で、専門職集団としての図書職員を確保することにある。図書館の中核的業務を遂行し、また、図書館運営・サービス提供能力の空洞化を招かないためには、図書職員を一定数確保し、さらに将来にわたって養成してゆく体制が必要である。また、大学統合時からの事務組織を見直し、医学情報管理係を廃止し、所掌する事務を本館の各担当部署へ再編した。

さらに業務のアウトソーシング化の検討を開始し、平成 18 年 7 月より館内に常駐して行う業務のうち、比較的専門的知識・技術を要しない閲覧部門のカウンター業務に、派遣職員を充当した。

結果、年度末時点の職員数は 23 人(常勤職員 13 人、非常勤職員 9 人、派遣職員 1 人)となった。

評価

統合後、サービス対象学部が 5 学部となったが全体の職員数は全国と同規模大学を大幅に下回っている状況には変わらない状況である。人件費削減の情勢の中、他部局に先駆けた事務組織再編を行なったことは評価できる。しかし、10 年後の図書館において主任クラスとして中核となるべき若手・中堅職員がいない等の年齢構成上の課題がある。

課題と対策

佐賀大学の将来にとって専門的知識を持つ図書職員は必要不可欠であるが、職員数を確保しさらに本学独自で養成してゆくことは容易ではない。専門職集団への道筋を提示しつつ、学内外の理解を得たうえで職員数の確保を実現するための努力が必要である。

アウトソーシングについては、今後、学生用図書目録・装備等の業務等について慎重に検討して行く予定である。アウトソーシングの導入は、安易な形で急ぐ必要はなく、少なくとも専門的な職員の確保が重要であろう。

6) 研修体制

現状

【資料】4-4 職員研修状況

平成 16 年度の法人化以降も、全国規模の図書館職員研修は引き続き開催されており、計画的に職員を派遣している。また、従来常勤職員のみを対象としていたが、法人化後は、非常勤職員にも機会を与え、積極的に研修を受けるよう計らっている。

評価

職員個人に対する研修については、非常勤職員も対象に含んでおり概ね良好と評価できる。

課題と対策

語学、接遇、会計研修等の基礎的研修、専門職集団のリーダーとなる人材を育成するための事務職員大学院研修実施要項に基づく大学院教育等、専門職集団を目指すための組織的な研修計画の立案が必要である。また、ベテラン職員に対してもリカレント教育、最新の図書館サービス・動向に関する研修が必要である。

(2) 財務

1) 予算

現状

【資料】4-5 年度別図書館経費

法人化後は予算配分方法が大きく様変わりした。学内配分では、一般運営経費が前年度比 20% の減の方針が決定されたが、図書館は学内共通利用施設扱いとされ 9% 減で配分が行われた。これには医学分館の経費が含まれている。その後も、毎年 1% の予算減が行われており、業務効率化による人件費削減、資料購入時の契約方法の見直しによる値引き率の拡大、事務用品、光熱水量費等の節約など、学生用図書購入等に必要な資料費への影響を抑える努力をしている。

平成 18 年度の配当額は、一般運営経費 89,136 千円、学長経費(電子ジャーナル経費)61,000 千円であった。なお、平成 18 年度の電子ジャーナル購入経費は、平成 17 年度第 19 回役員会において

購入方針が決められた。予算は学長経費のうちの「中期目標実行経費」から必要な額を確保するというものであり、このことを含む予算編成方針は平成 18 年 1 月に開催された第 9 回教育研究評議会において承認されている。

(本館)

平成 18 年度配分額から本館分として 67,445 千円及び学長経費の全額を振り分け、図書館維持費に 49,065 千円、図書費に 78,000 千円を充てた。

(医学分館)

平成 18 年度の当初配分額は、21,584 千円である。この中から図書館維持費として 16,084 千円、図書購入費として 5,500 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部からも別途図書購入費の配分を受けている。

評価

価格上昇を続ける外国雑誌や電子ジャーナルの購入経費を確保するためには今後の値上がり等を視野に入れながら予算を確保して行かなければならない。

一方、毎年 1% 予算額が削減されつつある状況を鑑み、図書館維持費の節減に努め図書購入費の減を防ごうとする努力は評価できる。

課題と対策

今後は大学全体の予算見直しがされる中で長期的に予算の減は避けられない流れとなっており、サービス水準維持と経費節減を如何に両立してゆくか、取り組みが問われているところである。附属図書館の活動における総括管理、連絡調整等の機能を一層高めるとともに、図書館活動に対する役員会をはじめとする全学的な理解を得るために働きかけて行きたい。殊に、電子ジャーナルと文献データベースは、全学にわたる教育と研究活動の源泉であり、研究のレベルを向上していくために不可欠のものである。学長経費、外部資金等を利用して維持拡大ができるよう一層の働きかけが必要である。

2) 決算

現状

【資料】4-5 年度別図書館経費

(本館)

図書館維持費のうち人件費が 4 割程度を占めるが、不足する常勤職員の補助として非常勤職員に助けられている実情が反映されている。これが全体経費の運用に支障をきたしているが、時間外開館延長の要望もあることからこの状況は簡単には解決できない問題である。また、光熱水量費は、若干増額となった。今後も節水・省エネルギーへの協力を利用者へ呼びかける努力を継続していくこととしている。

保守費は、空調機、エレベータ、各種設備の維持経費、さらに建物・設備の老朽化で今後は増加が見込まれる。

(医学分館)

平成 17 年度以降、図書館維持費は減少している。平成 18 年度は、組織再編に伴う非常勤職員の異動による人件費増が発生したが、光熱水量費等が節約でき、削減努力の成果が出た結果となった。

また、施設設備の修理に経費を要するようになってきており、今後の経費確保が課題である。

評価

本館・医学分館ともに施設・設備の老朽化が目立つ中で図書館維持費の削減努力は評価される。

課題と対策

大学全体の経費の削減方向を考慮すると、全体として経費削減に努力する必要がある。業務及びサービスの見直し、アウトソーシングを含め、慎重に検討を行って行く。

5 施設・設備

(1) 施設、設備等の整備状況

1) 建物

現状

【資料】5-1 図書館面積・閲覧座席数、5-2 視聴覚機器保有台数

5-3 端末機器導入状況、図面（『図書館利用のしおり 2006』）

図書館総面積は本館 5,332 m²、旧館 780 m²、医学分館 1,741 m² 合計 7,853 m²である。

閲覧座席数は本館 549 席、医学分館 132 席、合計 681 席である。本館（平成元年 3 月竣工）、医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）とも竣工後建物本体及び設備は増築、大規模改修は行っていない。

学習支援環境として、本館には、閲覧スペース、書架スペース、グループ学習室 3 室（各室 15 席）、マルチメディアルーム（9 席）、リスニングルーム（11 席）、閲覧個室 4 室（各室 4 席）を設置している。グループ学習室は、15 人が利用できる机・椅子、ホワイトボード、プロジェクタ電源、LAN ポートを設置した部屋である。閲覧個室は、机、椅子、照明スタンド、電源、LAN ポートを設けている。マルチメディアルームには、地上波放送、衛星放送、ビデオの視聴設備のほか、画像、音声などを編集できるマルチメディア編集用端末も 3 式設置している。リスニングルームには、語学学習用ブース（テープ、CD-ROM 対応）を用意している。

医学分館には、書架スペース、閲覧スペース、ビデオ・スライド室 2 室（計 10 席）、LL 室（5 席）を整備している。利用者用として学内 LAN に接続されたパソコンを本館に 75 台、医学分館に 53 台設置している。また、両館とも設備・備品として、自動入退館システム、図書自動貸出装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。

本館、医学分館ともに基本設計で書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど配慮がなされている。

利用者に対しては、快適な環境を提供することを念頭に、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実のほか、全館を徹底した清掃を行い、常に快適な学習環境を提供することに努めている。学習環境としては学内部局の中で比較的良好な状態である。

平成 18 年度には、学長経費により念願であった貴重資料室の空調機器の整備が行われた。

評価

総面積が 7,853 m²と全国と同規模大学平均下回る。座席数も合計 673 席であり、全国と同規模大学平均を下回っており充分なものとはいえない。

しかし、本館・医学分館ともに施設設備の老朽化が進む中で、快適な学習環境を提供することに努め、学内部局の理解を得て比較的良好な環境を維持していることは評価できる。

課題と対策

本館の空調機器は設置以来 20 年を経過して陳腐化が進行し、最新の機器に比べエネルギー効率の悪さは眼を覆うばかりである。エコアクション 21 を推進している本学においては、省エネルギーの観点から早急に機器更新を実現するための働きかけを行う必要がある。

また、利用者の安全確保と資料盗難防止の観点から、防犯カメラの整備と運用規程等の策定が急がれる。

2) 書架・書庫

現状 【資料】5-1 図書館面積・閲覧座席数

本館の蔵書冊数は 591,000 冊、学術雑誌 9,000 種、医学分館は 106,000 冊、学術雑誌 2,000 種である。合計 679,000 冊、11,000 種である。

本館の収容力は棚板延長 15,124m、収容可能冊数は 420,111 冊、医学分館の収容力は棚板延長 3,862m、収容可能冊数は 107,000 冊、合計棚板延長 18,986m、収容可能冊数 527,111 冊である。両館ともは全館開部架方式を採用し、書架に隣接し、閲覧席やグループ学習室を設置し知的な交流と創造ができるような環境設備に努めている。一方、全国と同規模大学平均との比較からも明らかなおり閲覧座席数は見劣りする状況であり、書庫の狭隘化は極めて深刻な状況にあることから建物の増築要求等を実施しているが、実現の可能性は極めて低いといわざるを得ない。

評価

書庫の狭隘化は極めて深刻な状況にあるうえ、今後返却図書が増加が見込まれ、解決は喫緊の課題であるが、書庫の増築は容易に認められるものではない。当面は、蔵書の廃棄によって狭隘と閲覧席数不足の緩和を行うべきところであるが、蔵書の廃棄ルールが未策定(本館)のために実施されていないことは問題である。

課題と対策

全学の合意を得ながら、引き続き増築の要求を行うことが必要である。一方で、現有スペースを効率的に利用するための具体的な方針、資料廃棄のルール策定を、早急に実行する必要がある。

(2) 施設、設備等の利用状況

現状 【資料】5-4 各室使用状況(本館)、5-5 本館会議室利用状況

1) 利用者用施設・設備

(本館)

各室の使用状況は、資料 5-4 のとおりである。マルチメディアルームやリスニングルームの利用が減少している。e-Learning システムにより語学演習が研究室や自宅の PC でできるようになったため、同室に備えている機器への要求が減少していることが一因と考えられる。

(医学分館)

医学分館には、ビデオ・スライド室 2 室、LL 室 5 ブースを設置し、利用者に提供している。医学分館にはグループ学習室がなく、ビデオ・スライド室がその代わりとなり、試験期間などは予約で一杯というのが現状である。

2) その他の施設・設備

・会議室(附属図書館 4 階)

使用状況は、資料 5-5 のとおりである。附属図書館は、本庄キャンパスのほぼ中心に位置し、4 階会議室にはテレビ会議システムが導入されていたこともあり、全学の会議会場として利用された。

評価

グループ学習室の利用は拡大傾向にあることから、図書館ポータルの効果进行评估したい。

課題と対策

利用は増加傾向にあるが、いずれの施設も試験期を除き利用の余地がある。広報等により施設の一層の周知を図り利用拡大に努めていきたい。

資料

1 教育支援

1-1 附属図書館蔵書数（平成 19 年 3 月 31 日現在）

①図書・雑誌

（本館）

区分	和漢書	洋書	計
総記	31,323 冊	48,203 冊	79,526 冊
哲学	20,139	9,266	29,405
歴史	38,730	6,498	45,228
社会科学	115,845	37,912	153,757
自然科学	69,973	45,016	114,989
工学	37,516	7,120	44,636
産業	26,397	4,686	31,083
芸術	18,124	2,950	21,074
語学	13,862	8,802	22,664
文学	32,143	15,631	47,774
計	404,052	186,084	590,136
雑誌	6,442 種	2,931 種	9,373 種

（医学分館）

区分	和漢書	洋書	計
専門教育関係	36,722 冊	33,941 冊	70,663 冊
一般教育関係	24,689	10,923	35,612
計	61,411	44,864	106,275
雑誌	1,007 種	986 種	1,993 種

【参考】所蔵図書冊数（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	和図書(冊)	洋図書(冊)	計	一大学平均(冊)
A（8 学部以上）	16	26,384,837	21,693,678	48,078,515	3,004,907
B（5～7 学部）	19	12,683,811	6,080,238	18,764,049	987,582
C（2～4 学部）	26	10,445,048	5,841,412	16,286,460	626,402
D（単科大学）	26	7,020,409	2,753,720	9,774,129	375,928

【参考】所蔵雑誌種類数（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	和雑誌(種)	洋雑誌(種)	計	一大学平均(種)
A（8 学部以上）	16	450,477	385,516	835,993	52,250
B（5～7 学部）	19	227,487	113,031	340,518	17,922
C（2～4 学部）	26	174,769	106,003	280,772	10,799
D（単科大学）	26	121,374	45,700	167,074	6,426

② 視聴覚資料（平成 19 年 3 月 31 日現在）

単位：タイトル

本館	1,353
医学分館	1,658
計	3,011

【参考】視聴覚資料所蔵数（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	台数(タイトル)	1 大学平均(タイトル)
A（8 学部以上）	16	435,976	27,249
B（5～7 学部）	19	102,363	5,388
C（2～4 学部）	26	148,935	5,728
D（単科大学）	26	81,514	3,135

1-2 開架図書冊数（本館）

単位：冊

年度	開架図書冊数
15	135,342
16	138,581
17	141,092
18	148,811

1-3 学生希望図書冊数（本館）

単位：冊

年度	希望図書冊数	読書奨励企画による購入	合計
15	149		149
16	108	159	267
17	140	75	215
18	51	168	219

1-4 開館時間

（本館）

	授 業 期	休 業 期	休 館 日
月～金	9：00～20：00	9：00～20：00	開学記念日（10 月 1 日） 年末・年始（12 月 28 日～1 月 4 日） 毎月第 4 木曜日（7 月を除く）
土、日、祝祭日	10：00～19：00	10：00～19：00	

（注）授業期の土、日、祝祭日及び休業期の開館時間帯は試行運用中である。

（医学分館）

学期	曜日	有人開館	無人開館	備 考
授業期	月～木曜日	9：00～21：00	21：00～翌日 08：30	* 国民の祝日等休館日の前日は、有人開館 終了後、無人開館はしない。
	金曜日	9：00～21：00	21：00～翌日 10：30	
	土・日曜日	10：30～18：30	閉館	
各季休業期	月～木曜日	9：00～17：30	17：30～翌日 08：30	* 各季休業期の日曜日、国民の祝日、および年末年始は休館日。
	金曜日	9：00～17：30	閉館(注)	
	土・日曜日	閉館	閉館(注)	

(注) 医学部では、夏季休業期の8・9月に学生の授業が行なわれる場合があり、当該期間は、金曜日の無人開館及び土・日曜日開館を実施している。

1-5 年間開館日数等

(本館)

年 度	開館日数(日)	時間外開館(時間)	土曜開館(日)	休日開館(日)
15	338	1,347	48	60
16	336	1,339	48	61
17	336	1,367	46	62
18	338	1,500	50	57

(医学分館)

年 度	開館日数(日)	時間外開館(時間)	土曜開館(日)	休日開館(日)
15	319	4,108	38	37
16	333	4,395	46	46
17	330	4,383	44	45
18	330	4,402	43	44

(注) 医学分館の時間外開館時間は夜間の無人開館時間を含む

【参考】 年間開館日数等 (『平成17年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	開館日数(日)	時間外開館(時間)	土曜開館(日)	休日開館(日)
A (8学部以上)	275	1,319	46	52
B (5～7学部)	324	1,601	43	50
C (2～4学部)	296	1,409	41	42
D (単科大学)	305	1,181	39	43

1-6 入館者数

(本館)

年 度	開館日数(日)	時間内(人)	時間外(人)	合 計(人)	1日平均(人)
15	338	203,850	73,119	277,049	820
16	336	178,454	72,231	250,685	746
17	336	175,116	57,578	232,694	693
18	338	208,592	81,612	290,204	854

(医学分館)

年 度	開館日数(日)	時間内(人)	時間外(人)	合 計(人)	1日平均(人)
15	319	101,743	72,408	174,151	546
16	333	108,615	86,878	195,493	587
17	330	115,243	95,687	210,930	639
18	330	114,846	90,236	205,082	621

1-7 館外貸出状況

(本館)

年 度	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
15	14,473	25,338
16	12,924	22,163
17	13,295	22,900

18	13,046	22,614
----	--------	--------

(医学分館)

年 度	貸出者数 (人)	貸出冊数(冊)
15	9,196	14,475
16	8,766	13,561
17	8,670	13,641
18	8,309	12,711

【参考】館外貸出冊数（一館平均）（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：冊

国立大学	教職員	学 生	学外者	計
A (8 学部以上)	2,914	17,485	316	20,715
B (5～7 学部)	3,574	30,808	841	35,223
C (2～4 学部)	2,426	23,433	796	26,655
D (単科大学)	3,486	26,566	986	31,038

1-8 利用指導実績（本館）

年度	初級コース		上級コース	
	回数(回)	人数(人)	回数(回)	人数(人)
15	46	949	4	36
16	38	870	6	134
17	45	988	15	238
18	33	982	12	185

1-9 相互貸借冊数

単位：冊

年度	借用			貸出		
	本館	医学分館	計	本館	医学分館	計
15	547	12	559	277	48	325
16	437	29	466	242	54	296
17	495	38	533	251	56	307
18	463	75	538	264	60	324
H18 一館平均	269		—	162		—

1-10 文献複写件数

単位：件

年度	依 頼			受 託		
	本館	医学分館	計	本館	医学分館	計
15	2,252	4,556	6,808	1,834	3,828	5,662
16	1,978	4,281	6,259	1,046	3,456	4,502
17	2,679	4,722	7,401	1,185	2,929	4,114
18	3,217	3,500	6,717	1,020	1,877	2,897
H18 一館平均	3,358		—	1,448		—

【参考】相互協力件数（一館平均）（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	相互貸借（借用）	相互貸借（貸出）	文献複写（依頼）	文献複写（受託）
A（8学部以上）	198	186	1,300	2,438
B（5～7学部）	248	236	2,984	2,640
C（2～4学部）	190	204	2,447	2,901
D（単科大学）	262	310	1,974	1,979

2 研究支援

2-1 図書館資料費の状況

単位：千円

年度	図 書			雑 誌			計
	本館	医学分館	計	本館	医学分館	計	
15	72,743	16,245	88,988	77,373	44,262	121,635	210,623
16	54,301	14,749	69,050	79,619	43,738	123,357	192,407
17	57,700	11,557	69,257	51,915	45,420	97,335	166,592
18	55,408	13,488	68,896	44,845	24,649	69,494	138,390

【参考】図書館資料費（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

（平成 16 年度実績：一大学平均）

単位：千円

国立大学	図 書	雑誌	計
A（8 学部以上）	211,826	363,153	574,979
B（5～7 学部）	53,780	132,462	186,242
C（2～4 学部）	41,779	84,143	125,922
D（単科大学）	23,655	32,526	56,181

2-2 電子ジャーナル導入状況

①導入パッケージ

	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Blackwell Synergy SSH	Wiley	Nature	Kluwer Kluwer Online	IEEE/CS CSLSP-e	LWW
平成 15 年度	○*1	○	○*2	○	○	○	○	○
平成 16 年度	○*1	○	○	○	○	○	○	○
平成 17 年度	○*1	○	○	○	○	—	—	—
平成 18 年度	○*1	○	○	○	○	—	—	○

（注）*1：Freedom Collection *2：契約期間平成 16 年 1～3 月

*IEEE 及び LWW は平成 16 年度で中止、LWW は平成 18 年度再導入

*Kluwer は平成 17 年 2 月より Springer に統合

②種類数

年 度	種類数(種)
平成 16 年度	4,301
平成 17 年度	4,406
平成 18 年度	4,475

【参考】所蔵電子ジャーナル種類数（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	電子ジャーナル(種)	一大学平均(種)
A（8 学部以上）	16	184,766	11,548
B（5～7 学部）	19	123,604	6,505
C（2～4 学部）	26	110,837	4,263
D（単科大学）	26	85,149	3,275

2-3 電子ジャーナル導入経費

平成 15 年度	4,716 千円
平成 16 年度	22,576 千円
平成 17 年度	33,293 千円
平成 18 年度	65,288 千円

2-4 電子ジャーナルアクセス状況

	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Blackwell Synergy SSH	Wiley	Nature	Kluwer Kluwer Online	IEEE/CS CSLSP-e	LWW	合計
平成15年度	58,771	4,345	4,438	5,187	4,682	6,416	2,082	682	86,603
平成16年度	74,222	4,785	7,125	6,678	6,212	7,502	2,590	2,919	112,033
平成17年度	83,002	7,813	8,953	8,165	8,923	—	—	—	116,856
平成18年度	87,715	8,310	10,218	9,521	10,487	—	—	4,868	131,119

2-5 学内 LAN による利用が可能なオンライン文献データベースサービス

データベース名及び利用件数(平成18年度)

国 内		国 外	
名称	利用数(件)	名称	利用数(件)
学術コンテンツポータル	17,820	SciFinder Scholar	7,866
Magazine Plus	2,558	Inside Web	—
聞蔵 DNA for Library	700	MLA International Bibliography	442
日経テレコン 21	—	Ovid MEDLINE	40,298
ネットで百科	291	CINAHL	
医中誌 WEB	233,763	EBM Reviews	
		UpToDate	5,117

2-6 文献データベースのトライアル及び説明会開催状況

年度	トライアル	説明会
15年度	EBSCOhost BioOne	SciFinder Scholar
16年度	Engineering Village2	Engineering Village2
17年度	Scopus	Scopus
18年度	Scopus	Scifinder Scholar

2-7 電子図書館システム提供データベース一覧

データベース名	内容	登録件数	アクセス件数 (平成16年)
OPAC データベース	佐賀大学が所蔵する図書・雑誌の所蔵目録	書誌：約38万件 所蔵：約72万件	約32万件
博士論文データベース	佐賀大学が学位を授与した博士論文	1,306件	4,026件
雑誌論文データベース	佐賀大学で発行する紀要雑誌	5,510件	10,568件
シラバスデータベース	講義計画や講義内容、課題や資料等	18,000件	74,804件
教員基礎情報データベース	教員の氏名、経歴、研究概要等	—	74,420件
研究業績データベース	教員の著書、学術論文の研究成果情報等	—	17,288件

植物遺伝資源データベース	農学部のカキ類系統保存種	120 件	16,891 件
貴重書コレクション	学内所蔵の小城鍋島文庫、 市場直次郎コレクション 葉隠 574 枚 孟子通 66 枚 日記目録 7,034 枚 立場附 63 枚 津島日記 158 枚 八重一重 36 枚 大津絵節 257 枚 扇面 366 枚	429 点	21,365 件 葉隠 8,702 件 孟子通 1,816 件 日記目録 1,218 件 立場附 1,572 件 津島日記 1,696 件 八重一重 1,109 件 大津絵節 2,707 件 扇面 2,545 件

3 社会貢献

3-1 一般市民への貸出状況

年 度	本 館			医学分館
	利用登録数(件)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出冊数(冊)
15	163	410	868	8
16	168	317	686	13
17	157	315	726	33
18	113	355	899	2

3-2 図書館月間 公開セミナー開催一覧

年度	演 題	講 師
15	IT時代の医学医療情報収集法 ―病気について知りたい―	小橋 修 (佐賀大学医学部教授)
	報道の現場で考えてきたこと	織田 柳太郎 (NHK福岡放送局放送部長)
	映像に観るシェイクスピア劇の女たち	朱雀 成子 (文化教育学部教授)
	現代のマルチメディアから国際問題を調べる ―ウェブ上で読んだことを信じて大丈夫ですか?―	ジャン・A・ダイソン (在福岡アメリカ領事館 広報担当領事兼アメリカンセンター館長)
	アメリカについて知りたいとき ―データベースはどこまで応えられるか―	笠 優子 (福岡アメリカンセンター資料室レファレンス・スペシャリスト)
17	大学広報とメディア	早瀬博範 (佐賀大学文化教育学部教授)
	地域に生きる～支え合いの社会を目指して	寺崎宗俊 (佐賀新聞社報道局長)
	テレビの内外～佐賀放送局の取組み～	亀井嘉朗 (NHK佐賀放送局放送部長)
	ふれあいミーティング	阿世知幸雄 (NHK佐賀放送局局長) 他NHKスタッフ
18	芭蕉山脈の九州そして佐賀	上野信好 (元佐賀市収入役)
	虹の松原～ショウ (松露) 再び～	田中明 (佐賀大学海浜台地生物環境研究センター教授)
	大庭雪齋について 二展示見学説明会	青木歳幸 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授)
	オーケストラよもやま話 モーツァルトと彼のオーケストラ曲の魅力	久原興民 (元都響第二バイオリンist)
	映画に魅せられて～もう一度逢いたい!～	久原正之 (元大映プロデューサー)

3-3 図書館月間 文化講演会開催一覧

年度	演 題	講 師
15	日中比較史論への提言 ―覇王徳川家康とその出自を素材として―	所 理喜夫 (駒沢大学名誉教授)
16	芭蕉の文芸 ―古典への回帰を願って―	上野信好 (佐賀市収入役)
17	芭蕉の内なる西行	上野信好 (前佐賀市収入役)
18	知遊学への誘い～私のブライダージュの楽しみ～	小巻正直 (元富士ゼロック総合教育研究所・スペースアルファ神戸所長)

3-4 図書館月間 貴重書コレクション展示会開催一覧

年度	展示名	展示内容
15	小城鍋島文庫 古活字版展	小城鍋島文庫に所蔵する資料のうち、各時代を代表する古活字版資料11点を選んで展示を行った。また、小城歴史資料館所蔵の古活字版「伏見版 七書」を借用し、同時に展示した。
	電子展示「扇面」	市場直次郎コレクションの扇面 500 余点の中から、電子画像化した 366 点をプラズマディスプレイにて公開した。
16	佐賀の文人の短冊	市場直次郎コレクションの中から佐賀にゆかりの深い中世から近世の文人の短冊、色紙18点を選び、展示した。
17	人工體普録	小城鍋島文庫から人工體普録 1 冊（人体解剖模型「キュンストレーキ」解説書）を展示し、同時に福井市立郷土歴史博物館から借用した同模型の写真パネルも展示した。
	相良知安展	相良知安子孫の相良隆弘氏（佐賀在住）から資料を借り受け、同氏所蔵の写真、文書類を展示した。
18	大庭雪齋展	大庭雪齋が翻訳した「民間格致問答」をはじめ、図書館所蔵の小城鍋島文庫のうち、未公開の医学関係資料などを展示した。

3-5 文化交流協定 出張講座開催一覧

年度	演 題	講 師
15	直能公と和歌	井上敏幸（文化教育学部教授）
	古名硯の魅力	竹之内裕章（文化教育学部教授）
	佐賀県の産業遺産	山本長次（経済学部助教授）
	中世千葉氏とその家臣の繁栄	宮島敬一（附属図書館長）
16	小城鍋島藩と島原の乱	宮島敬一（佐賀大学経済学部教授）
	古墳時代の佐賀	佐田茂（佐賀大学文化教育学部教授）
	原城跡出土のキリシタン遺物	松本慎二（南有馬町教育委員会）
	戦国時代を生き抜いた武将たち	宮島敦子（佐賀大学文化教育学部教授）

3-6 文化交流協定 展示会開催一覧

年度	展 示 名	展 示 内 容
15	元茂公・直能公の蔵書展	小城鍋島文庫収蔵資料のうち、小城藩初代藩主元茂公・二代藩主直能公の蔵書30点を展示した。
16	小城鍋島藩と島原の乱展	附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から展示した主な資料は「鍋島若狭守他連署血判状」「鍋島勝茂書状」「陣立図」「元茂公御年譜」等である。特別展示として、長崎県南有馬町教育委員会蔵の「メダイ」「弾丸」「砲弾」「十字架」が展示された。
17	小城鍋島家の近代展	附属図書館所蔵の小城鍋島文庫の中から近代の資料
18	成立期の小城藩と藩主たち	附属図書館所蔵の小城鍋島文庫から藩主等に関連する資料

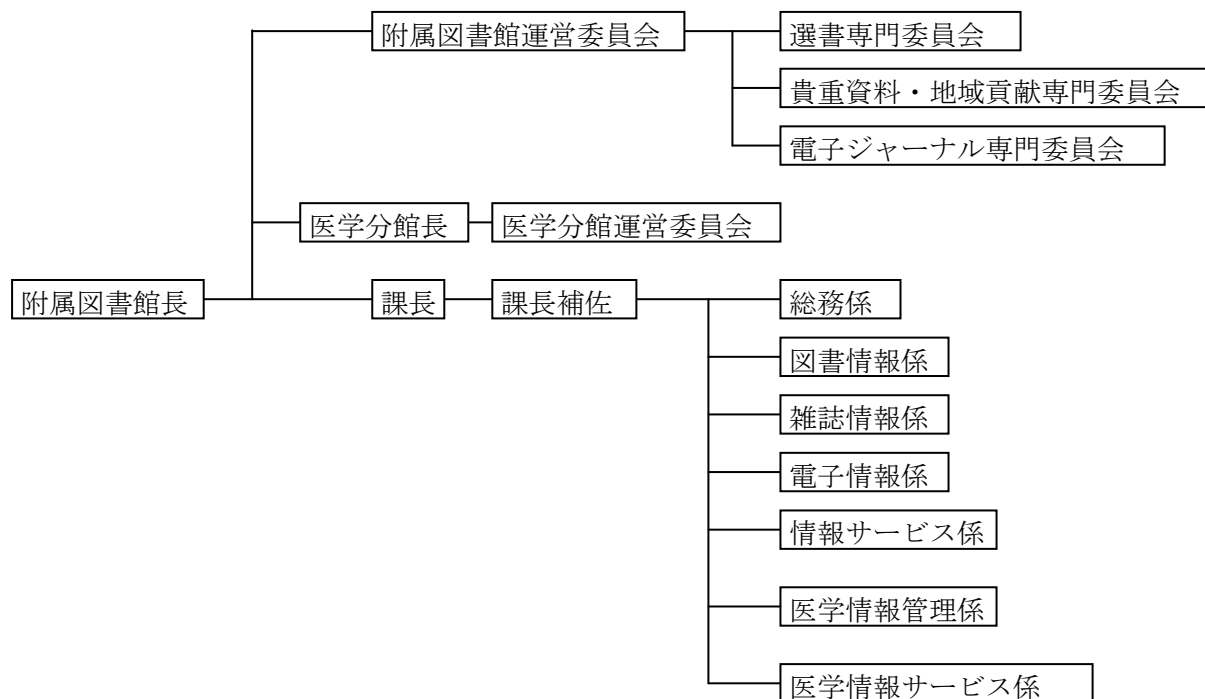
3-7 附属図書館所蔵コレクション一覧

	コレクション名	内 容
地域資料コレクション	小城鍋島文庫	佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた貴重な図書・文書で、当主鍋島直浩氏のご厚意と西島製作所原田龍平氏のご配慮により、昭和 35 年に寄贈され、昭和 38 年には小城町教育委員会から小城鍋島家旧蔵漢籍が寄贈されたもので、1 万点を超える国書、漢籍、歴史史料からなる。
	唐津藩庄屋文書	唐津藩の庄屋史料を中心に地方（じかた）文書を含む約 1,000 点の近世中・後期から明治にかけての庄屋史料である。
	深江文書	深江家に伝わる美濃派俳諧の資料で、深江泪中氏より平成 5 年に寄贈されたものであり、江戸中期から明治初期に佐賀で編まれた 49 点の俳書である。
	江藤新平関係文書	明治維新の政治家、江藤新平に関する資料をマイクロフィルム化したもので、佐賀県立図書館に所蔵されている 1,400 点余の資料と、江藤家に秘蔵されていた未公開資料 130 点を含んでいる。明治初期の政治・法制成立課程の研究や江藤研究の貴重な資料である。
	佐賀地方裁判所資料	佐賀地方裁判所より、平成 11 年に寄贈を受けたもので、明治初期から昭和初期に至るまでの裁判制度に関する資料であり、佐賀地方に限定されているとはいえ、明治初期から昭和初期までの地方における裁判の全体像を知ることができる貴重な資料である。
	市場直次郎コレクション	佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎氏が蒐集した、扇面・色紙・和書・掛軸等 1,900 点余のコレクションを 3 期にわたって購入した。コレクション中、近世の文人が描いた書画の扇面は 502 点にも及び、全国でも他に例がないものである。 (第 1 期分のみ文部科学省大型コレクション経費 平成 13 年度採択)
研究用コレクション	東寺百合文書	東京大学史料編纂所が京都教王護国寺（通称東寺）旧蔵文書の影写本をマイクロフィルム化したもの。文書には、鎌倉・室町時代の東寺関係諸記録約 1,000 点を含み、東寺の寺院経営や寺院の荘園に関する寺院経済関係の記録が豊富である。 (文部科学省大型コレクション経費 昭和 56 年度採択)
	バイルシュタイン有機化学全書	Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 炭素化合物の物理的、化学的諸特性に関する百科事典 (文部科学省大型コレクション経費 昭和 62 年度採択)
	国立国会図書館所蔵 明治期産業翻訳書集成	明治期のお雇い外国人官僚技術者、知識人の外国事情、学術研究書などの翻訳と報告をマイクロフィルム化したもの。万国博覧会編、農業編、工業編、産業史編に分かれている。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)
	1990 世界農林業センサス農業集落カード	農業の国勢調査ともいべき農林業センサスの調査結果の一つで、農村地域の最小単位である全国約 13 万 4 千の農業集落について調査結果を整理統合した資料。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)

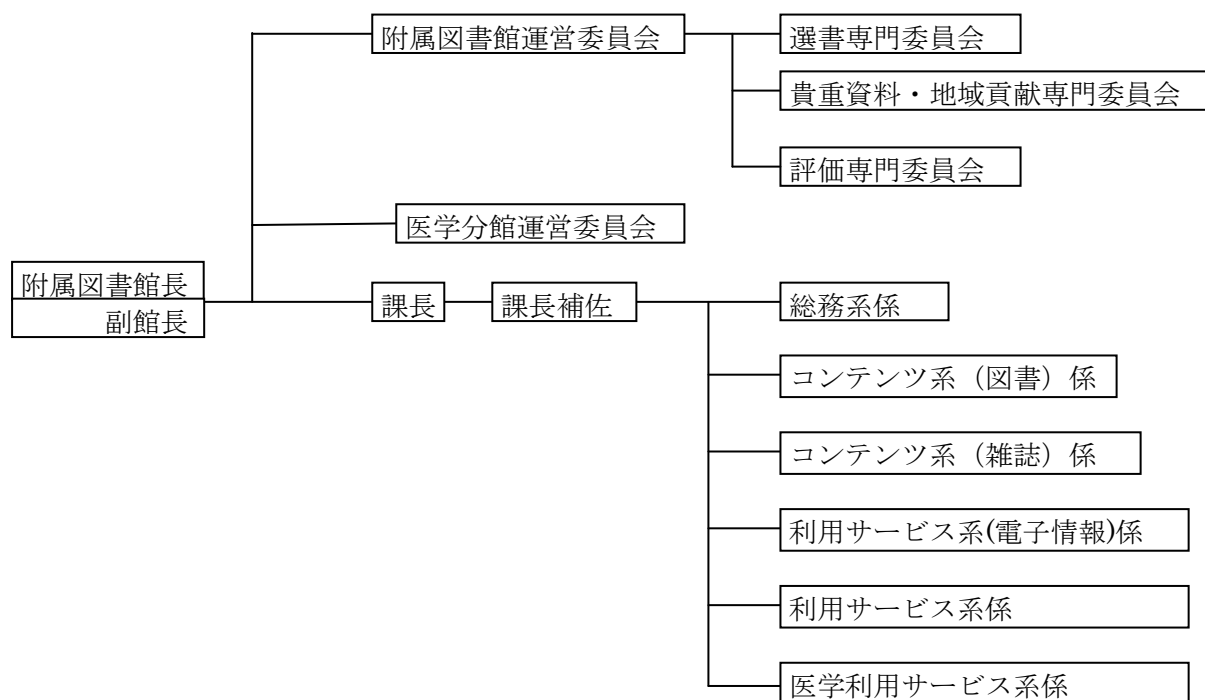
4 組織運営

4-1 附属図書館組織・機構図

①平成 15 年 10 月～平成 18 年 6 月



②平成 18 年 11 月現在



4-2 附属図書館職員数（～平成18年6月）

区 分	定 員			定員外	合 計
	一般職員	図書館職員	計	非常勤職員	
課長		1	1		1
補佐		1	1		1
総務係	1		1	2	3
図書情報係	1	1	2	2	4
雑誌情報係		1	1	2	3
電子情報係		2	2		2
情報サービス係		1	1	3(6)	4(6)
医学情報管理係	2		2		2
医学情報サービス係	1	2	3	1(6)	4(6)
計	5	9	14	10(12)	24(12)

＊情報サービス係（6）及び医学情報サービス係（6）は、時間外閲覧要員で外数

【参考】図書館職員数（『平成17年度学術情報基盤実態調査結果報告』より）

国立大学	大学数	総人数			平均人員		
		定員	定員外	計	定員	定員外	計
A（8学部以上）	16	961	848	1,809	60	53	113
B（5～7学部）	19	379	355	734	20	19	39
C（2～4学部）	26	360	369	729	14	14	28
D（単科大学）	26	260	221	481	10	9	19

4-3 附属図書館職員数（平成18年7月1日現在）

区 分	定 員			定員外	その他	合 計
	一般職員	図書職員	計	非常勤職員	派遣職員	
課長		1	1			1
補佐		1	1			1
総務系係	2		2	2		4
コンテンツ系(図書)係	1	1	2	2		4
コンテンツ系(雑誌)係		1	1	2		3
利用サービス系(電子情報)係		2	2			2
利用サービス系係		1	1	2(6)	1	4(6)
医学利用サービス系係	1	2	3	2(6)		5(6)
計	4	9	13	10(12)		24(12)

＊利用サービス系係（6）及び医学利用サービス系係（6）は、時間外閲覧要員で外数

4-4 職員研修状況

年 度	研 修 名	場 所	人 数
15	大学図書館職員講習会	大阪府	2名
	Global ILL Framework(GIF)と画像伝送システムの活用研修	京都市	1名
	九州地区国立大学図書館パネルディスカッション	福岡市	1名
	EBM 活動を支援する図書館員の役割及び法人経営のもとでの医学図書館サービスに関する調査	東京都	2名
	中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソン・セミナー	広島市	2名
	生協の図書発注システムと図書館システムとの連携についての調査・研修	西宮市	1名
	法人化後における文献複写業務についての調査・研修	吹田市	1名
	法人化後の図書受入業務に関する調査・研修	大分市	1名
16	JOIS 研修会	福岡市	1名
	目録システム地域講習会（図書コース）	熊本市	2名
	目録システム地域講習会（雑誌コース）	東京都	1名
	九州大学・ソウル大学校図書館間交流協定による国際セミナー	福岡市	2名
	大学図書館員長期研修	東京都	1名
	九州地区医学図書館員セミナー	大分市	1名
	佐賀大学新採用事務系職員研修	佐賀市	3名
	国立大学法人等新任課長・事務長研修	東京都	1名
	電子ジャーナル・図書の管理に関する調査・研修	松江市	2名
17	目録システム地域講習会	福岡市	1名
	医学図書館員基礎研修会	京都市	1名
	図書館等職員著作権実務講習会	福岡市	1名
	大学図書館職員講習会	京都市	1名
	中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソン・セミナー	広島市	2名
	学術情報リテラシー教育担当者研修	大阪府	1名
	理系図書館開館記念セミナー「九州大学研究者のインパクト」	福岡市	1名
	レファレンス協同データベース事業参加館フォーラム	京都府	1名
	佐賀大学新採用事務系職員フォローアップ研修	佐賀市	3名
18	目録システム地域講習会	福岡市	2名
	広島大学図書館ワークショップ「学術情報の新しいチャンネル」	東広島市	1名
	大学図書館職員講習会	京都市	1名
	学術情報リテラシー教育担当者会議	豊中市	1名
	九州地区国立学校会計事務研修	長崎市	1名
	図書館等職員著作権実務講習会	福岡市	2名
	九州地区医学図書館員セミナー	熊本市	1名

4-5 年度別図書館経費

(本館予算)

単位：千円

事 項		16 年度	17 年度	18 年度
経常経費	図書館維持費	49,573	50,898	50,840
	図書費	23,530	34,737	17,000
小 計		73,103	85,635	67,840
特別経費	学長経費	9,597	3,814	61,000
	(電子ジャーナル整備費)			
小 計		9,597	3,814	61,000
計		82,700	89,449	128,840

(本館決算)

単位：千円

事 項		15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
図 書 館 維 持 費	人件費	20,890	19,101	19,176	18,167
	光熱水料	8,399	7,935	7,570	7,640
	保守・役務費	20,117	13,844	16,937	15,363
	通信費	721	694	446	440
	備品・消耗品	4,828	2,719	6,309	5,075
小 計		54,955	44,293	50,438	46,685
図書費		35,548 市場直次郎コレ クション購入費 13,519 千円を含 む	37,554 学 長 経 費 9,597 千円含む	38,951 学長経費 3,814 千 円含む	80,397 学長経費 61,000 千円含 む
計		90,503	81,847	89,389	127,082

(注 1) 平成 15 年度は統合時の特殊事情があるため、決算のみを示した。

(注 2) 平成 16 年度は文系基礎学研究費として学長経費 7,600 千円の配分を受け執行を行ったが、実質図書館への配分ではなく、教員の研究費である。

(注 3) 平成 17 年度はエレベータ耐震工事 2 基分の費用とし、学長経費で昇降機改修費 1,221 千円の配分を受け工事を実施した。

(医学分館予算)

単位：千円

事 項		16 年度	17 年度	18 年度
図書館維持費		19,350	16,191	16,084
図書購入費	図書購入費	4,600	5,500	5,500
	医学部経費	53,094	50,965	34,308
計		77,044	72,656	55,892

(医学分館決算)

単位：千円

事 項		15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
図書館維持費		19,204	19,370	15,826	15,436
図書購入費		48,612	57,694	56,465	39,837
計		67,816	77,064	72,291	55,273

注 1) 平成 15 年度は統合時の特殊事情があるため、決算のみを示した。

5 施設・設備

5-1 図書館面積・閲覧座席数

	総床面積(m ²)	閲覧座席数(席)	書架収容力	
			棚板延長(m)	収容可能冊数(冊)
本館	6,112	549	15,124	420,111
医学分館	1,741	132	3,862	107,000
計	7,853	681	18,986	527,111

【参考】面積・閲覧座席数（平成 17 年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	総床面積(m ²)	1 大学床面積(m ²)	閲覧座席数(席)	1 大学座席数(席)
A (8 学部以上)	16	455,752	28,485	30,557	1,910
B ((5～7 学部)	19	193,604	10,190	16,155	850
C (2～4 学部)	26	178,658	6,871	13,968	537
D (単科大学)	26	107,978	4,153	8,268	318

【参考】書架収容力（平成 17 年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	棚板延長(m)	1 大学棚板延長(m)	収容可能冊数(冊)	1 大学当収納可能冊数(冊)
A (8 学部以上)	16	1,565,189	97,824	43,477,475	2,717,342
B ((5～7 学部)	19	603,987	31,789	16,777,416	883,022
C (2～4 学部)	26	560,975	21,576	15,582,638	599,332
D (単科大学)	26	344,781	13,261	9,577,248	368,356

5-2 視聴覚機器保有台数（平成 19 年 3 月 31 日現在）

単位：台

	保有台数
本館	39
医学分館	31
計	70

【参考】視聴覚機器保有台数（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	台数(台)	1 大学平均(台)
A (8 学部以上)	16	1,301	81
B (5～7 学部)	19	665	35
C (2～4 学部)	26	764	29
D (単科大学)	26	724	28

5-3 端末機器導入状況（平成 19 年 3 月 31 日現在） 単位：台

	業務用	利用者用
本館	25	75
医学分館	6	53
計	31	128

【参考】端末機器導入状況（『平成 17 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	業務用		利用者用	
		台数(台)	1 大学平均(台)	台数(台)	1 大学平均(台)
A（8 学部以上）	16	2,073	130	1,938	121
B（5～7 学部）	19	869	46	1,123	59
C（2～4 学部）	26	587	23	912	35
D（単科大学）	26	399	15	655	25

5-4 各室使用状況（本館）

年 度	グループ学習室（回）	閲覧個室（人）	マルチメディアルーム（人）	リスニングルーム（人）
15	486	103	1,301	737
16	377	198	1,122	205
17	466	292	923	187
18	591	312	929	171

5-5 本館会議室利用状況

	平成 17 年度			平成 18 年度		
	回数(回)	時間(時間)	人数(人)	回数(回)	時間(時)	人数(人)
年間計	150	413	3,011	76	229	1,506
月平均	12.5	34.2	250.9	6.3	19	126
週平均	3.1	8.5	62.7	1.5	4.4	29

6 評価体制

6-1 規模別大学一覧（平成 17 年度学術情報基盤実態調査）

国立大学（87 大学）

平成 17 年 5 月 1 日現在

A (8 学部以上)	B (5～7 学部)	C (2～4 学部)		D (単科大学)	
北海道大学 東北大学 千葉大学 東京大学 新潟大学 金沢大学 信州大学 名古屋大学 京都大学 大阪大学 神戸大学 岡山大学 広島大学 九州大学 長崎大学 鹿児島大学 計 16 校	弘前大学 山形大学 茨城大学 筑波大学 埼玉大学 富山大学 岐阜大学 静岡大学 三重大学 島根大学 山口大学 徳島大学 香川大学 愛媛大学 高知大学 佐賀大学 熊本大学 琉球大学 総合研究大学院大学 計 19 校	岩手大学 秋田大学 福島大学 宇都宮大学 群馬大学 東京医科歯科大学 東京農工大学 東京芸術大学 東京工業大学 東京海洋大学 お茶の水女子大学 一橋大学 横浜国立大学 富山医科歯科大学 福井大学 山梨大学 滋賀大学 京都工芸繊維大学 奈良女子大学 和歌山大学 計 26 校	鳥取大学 九州工業大学 大分大学 宮崎大学 北陸先端科学技術 大学院大学 奈良先端科学技術 大学院大学 計 26 校	北海道教育大学 室蘭工業大学 小樽商科大学 帯広畜産大学 旭川医科大学 北見工業大学 宮城教育大学 東京外国語大学 東京学芸大学 電気通信大学 長岡技術科学大学 上越教育大学 浜松医科大学 愛知教育大学 名古屋工業大学 豊橋技術科学大学 滋賀医科大学 京都教育大学 大阪外国語大学 大阪教育大学 計 26 校	兵庫教育 奈良教育 鳴門教育 福岡教育 鹿屋体育 政策研究大学院大学 計 26 校